



色とりどり、多様性を認めあう子どもたち。 ～小学校×ジェンダー平等～



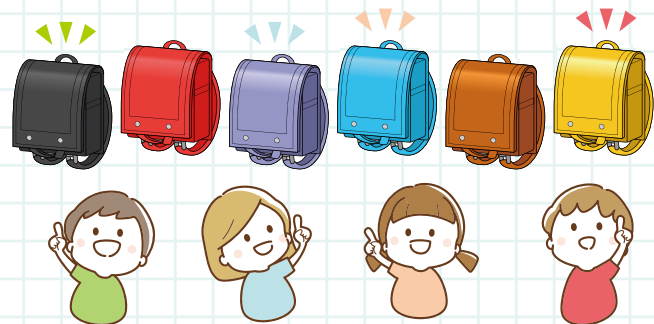
共働き世代が増えている中で、仕事との両立がしやすくなるように、育児・介護休業法改正（新設・男性版産休）が4月より開始。「ジェンダー平等」はSDGs目標5に掲げられています。そのような中、薩摩川内市の小学生が、毎日一日の大半を過ごす学校の中でどんな学びを得ているのか興味が湧きました。そこで、編集委員が永利小学校を訪ねて中川教頭先生にお話をきかせていただきました。



中川教頭先生

永利小学校は、クラスをいろは組にしている150周年を迎えた歴史ある小学校。隣接するように地区コミュニティ、保育園、神社があり、近くのつくし園ソーシャルワーカーや中学校とも連携しています。働く場としては、時短勤務や休暇取得など取り易いよう、協力し合って人間関係を築いています。

子どもたちは男女の区別なく多様性を認め合っている感じです。ランドセルの色も好きな色が選べるので色とりどりで、何色あるかわかりません。



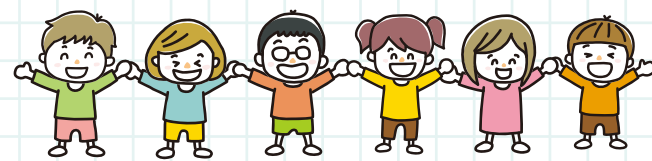
Q. ジェンダー平等教育にはどのようなものがありますか。

A. 教科の中で特にあるわけではありませんが、2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会後、国から多くの教材が配布されるようになりました。

子どもの呼び方を「男の子はくん」「女の子はさん」としていた時期もありましたが、今は男女ともに「さん」を使う職員がほとんどです。名簿も、性別で分けない

「男女混合名簿」を使っています。シューズの色も男女で別々ではありません。（以前は男子は青、女子は赤とありましたね）

自分と違う考えや意見も認めあえる教育がジェンダー平等につながっていると思っています。このような意識を持ちながら日常の教育に少しでも取り入れることが重要だと考えます。日々の児童とのふれあいや接する場面において「お互いを思いやり相手の価値観を尊重する」行動へと導いています。



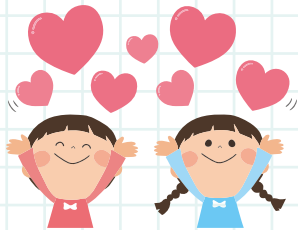
Q. LGBTQ、性自認への対処、環境づくりなどについてお考えをきかせてください。

※LGBTQとは、レズビアン（女性同性愛者）、ゲイ（男性同性愛者）バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（生まれた時の性別と自認する性別が一致しない人）、クエスチョニング（自分自身のセクシュアリティを決められない、分らない、または決めない人）、など性的少数者の方を表す総称のひとつ。

※性自認とは、「こころの性」と呼ばれることもあります。多くの方は、性自認（こころの性）と生物学的な性（からだの性）が一致していますが、この両者が一致しないために違和感を覚える人もいます。

A. LGBTQについては道徳の教材に少し盛り込まれていると思います。実際に現在の自らの性に違和感を覚える子供がいたとしたら、標準服のスカートやズボンを着るのがつらかったり、息苦しさがあったり、登校が困難になるかもしれません。

LGBTQの認知度は高まっていますが、本人がカミングアウトするのは大変なことだと思います。標準服のジェンダーレス化や、男女の区別なく使えるトイレを増やすなどの対応が求められると思います。ただ、施設整備には予算が伴うので簡単ではなさそうです。



SDGsをはじめ、様々な新たな課題が現場では出てきます。新しいことに取り組むのは時間・労力が必ず必要です。重要なのは、一時的なものではなく、取り組み続けることでそれが当たり前になることだと思います。

ジェンダーレス制服の導入広がる



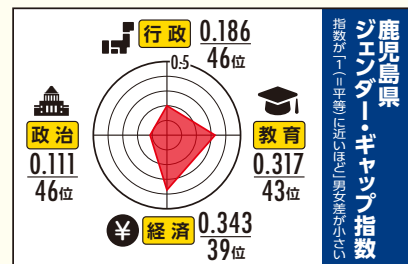
選択制・ユニセックス(男女兼用) 制服 (写真提供 トンボ)

制服を採用する鹿児島県内の公立中学校(義務教育学校を含む)で、女子のスラックスや男女共通のポロシャツといった選択肢を広げたのは約34%にあたる71校(南日本新聞2022.5.28)、高校生になるとさらに多く約6割を占めているそうです。その理由に性の多様性への配慮やジェンダーの視点だけでなく、防寒・機能面もあげられます。

薩摩川内市内では小学校から多くが標準服や制服を導入しています。小学校を含むすべての子どもたちが快適に自分らしく(カミングアウトせずとも)学校生活を送れるよう校則や服装・環境などを整えていきたいものですね。

〈取材を終えて〉

「地域から平等研究会(上智大:三浦まり教授)」が今年の国際女性デー(3月8日)に合わせ各都道府県の男女平等の度合いを分析した「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数」を公表しています。鹿児島県は「行政」「経済」「教育」「政治」の4分野のうち3分野が40位台と低迷。これは、県の特性を踏まえた社会問題です。



しかし、今回の取材では、教育の現場で、先生方にとっても色々な取り組みを、地道な言葉かけや話し合いなどで対応されていることがわかりました。学校生活の中で得る知識、環境が与える影響の大きさについて再確認しました。また、子どもは、弱い立場でなかなか声に出せないこともあるので、大人が寄り添い守ることも大切。1人ひとりの個性が発揮でき、のびのびとした学校生活を経た子どもたちが、いずれはジェンダー平等の大切さを共有しあう地域づくりの担い手となることへの、期待が高まりました。

【編集委員から】

私たちの日常には、「男だから」「女だから」という固定観念や無意識に性別で決め付けていることって意外と多いのかも。「お互いを思いやり相手の価値観を尊重する」とはどういうことなのか、家庭や地域でも考えてみませんか。

無料で講師を派遣する男女共同参画出前講座があります。PTA等でご利用ください。お問い合わせは、薩摩川内市コミュニティ課生涯学習・ひとみらい政策Gへ。

おすすめの本

いいタッチわるいタッチ ～だいじょうぶの絵本1～

作/安藤 由紀



『口や水着で隠れる場所は、自分だけの大切なところ。触って良いのは自分だけなの』と優しく導く。可愛いイヌの子ども達が、愛されるタッチとそうで

ないタッチを学んでいく絵本です。不安をとりのぞいてくれるQ&Aもあります。だいじょうぶの絵本「あなたはちっともわるくない」「わたしが好き」も合わせて読んでみましょう。

♡相談窓口

①女性の相談窓口

と き: 月～金(祝日、休館日、年末年始を除く) 9時～17時
TEL: 090-2636-7763, 25-6056

②何でも無料相談室

と き: 毎週土曜日13時～16時
TEL: 25-6056

①②とも場所は男女共同参画センター (SSプラザせんだい内)

●配偶者等からの暴力

と き: 月～金(祝日・年末年始を除く)9時～17時
ところ: 市役所障害・社会福祉課
TEL: 20-6343(直通)

●よりそいホットライン (暮らしの困りごと、気持ちや悩みなど)

と き: 24時間対応
TEL: 0120-279-338

編集後記

“今を生きる”子どもたちの教育の現状を知りたいな!という声から取り組みがスタート!永利小学校の中川教頭先生にじっくりお話を伺うことが出来ました。全てを紹介出来ないのが残念です。

まずは、変わりゆく教育の現状を知る!大人も学ぶ!そして動く!必要があると感じました。

(K&Y)

発行/薩摩川内市未来政策部コミュニティ課
編集/薩摩川内市男女共同参画推進実行委員会
問い合わせ先/〒895-8650
薩摩川内市神田町3-22

TEL: 0996-23-5111(内線4741)

FAX: 0996-20-5570

Email: hitomirai@city.satsumasendai.lg.jp

(令和4年 9月発行)